

# 行急現場に直ち本部・支部 脱線事故発生! 闘争防衛・事故対策開始!

## 成田線久住駅構内で 脱線事故発生!

**「運転士連行」を策した権力の攻撃を阻止!**

「事故を喰いものにせんと」  
「しゃしゃり出た革マル松崎の暴言を徹底弾劾する!」

一昨日(四月九日)一八時五九分、成田線久住駅構内で銚子支部組合員・畔蒜運転士の乗務する四四七M列車が下り出発の安全ソク線に乗り上げるといふ事故が発生した。地本は、事故発生のお知らせを受けると同時に、現地に山口交渉部長、吉岡、林両執行委員の三名を派遣し、乗務員防衛、事故対策のために取り組みを行なった。

乗務員に対する警察権力の介入を地本・支部一体となつて粉碎!

事故現場は、ジェット燃料輸送鹿島ルートにあたり、警察権力の動きは、す早く、事故発生五分後には、現場にきて、運転士を連行しようとした。

ジェット燃料輸送ルートにあたる成田線での事故などによる燃料列車の運休、ストップは、直接、三里塚空港の死命にかかわり、燃料不足からくる空港機能のマヒにつながる危険性を常に持っている線区である。従つて、政府、空港公団、警察権力にとってこの燃料輸送ルートの確保が至上命令であり、このルートの警戒は、厳重を極めている。

だから、久住駅での事故発生直後の五分後には、早くも現場に警察が現われ、県警課長、成田署長も現われ、運転士を連行しようとしたのであった。しかし、対向列車の乗務員として現場に到着していた成田支部役員の後藤明運転士などが、警察権力の介入を排除し、運転士の連行を阻止し、成田運転区に乗務員をつれ帰えり、かけつけた三名の地本執行委員も含めて、乗務員防衛、事故対策を開始した。

「事故」を喰いものにする松崎!  
介入策動失敗!!

三名の地本執行委員と成田・銚子支部役員を中心に、当該乗務員の防衛と弾圧を排除するために真夜中まで動き廻っていた真最中に、何をとりかえたのか東京地本委員長松崎明、同田端支部書

記長上野孝、本部中執小谷、今井などがボディガードを引きつれ、事故現場に現われたのである。なぜ全く関係のない東京の松崎などが千葉の事故で、真夜中にわざわざ久住駅までしゃしゃり出てきたのか? それは、彼らが今回の事故にとり入つて、勤労千葉の分裂と破壊をなんとか強行しようとしてきたのである。

ひんしゆくちよう笑をかつた背広  
●ネクタイ姿で「見物」の松崎!

松崎以下の革マル分子は、背広にネクタイ姿という事故現場に全くふつり合ひなかつたので現われ、事故復旧にあたっていた佐倉機関区の人達に「じゃまだからどける」といわれて、身の置き所もなくコンコンとウロツキ廻つた末に、復旧作業員のための夜食をつまみ喰ひして、立ち去つたのである。

「船橋闘争の裏切り者」に労働者の利益は守れない

そもそも、かの「船橋事故」の時「運転事故など労働組合でとり上げてやれるものではない」と当局論理にドブプリつかつて「高石運転士過失論」をふりまき、千葉地本が独力で闘いぬいた「反合」運転保安闘争(強力減産闘争)を積極的に妨害し、機関決定で全国的にとりくんだ裁判闘争勝利の「署名」運動を唯一さぼつて一枚もやらなかつたあの東京地本・その指導者松崎に、どうして「乗務員の利益を守る」闘いが出来るというのだ!! あつかましいにもほどがある。

このような、「謀略」云々を口実に、当局の前に屈服していく路線を断固拒否し、一四〇〇名の団結を裏力で築き上げてきた反合「運転保安闘争」の真価を発揮して闘いぬこう!  
「本部」・革マルの卑劣な組織攪乱・介入を粉碎しよう!